

国語 第2学年 図書館たんけん

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。図書館の本の置き方を知り、読みたい本を探して読む。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「図書館たんけん」 教材名「図書館たんけん」

2 単元の目標

読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〔知識及び技能〕(3)エ)

図書館の本の置き方を知り、読みたい本を探して読む学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。〔知識及び技能〕(3)エ)

〔思考・判断・表現〕①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①図書館の本の置き方を知り、読みたい本を探して読む学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

図書館の本の置き方を知り、読みたい本を探して読む。この教材では、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

学校で使える分類表示や検索の手順を実物で示す。読む目的と合うかを中身で確認し、本の厚さや読んだ冊数を評価の基準にしない。想定する難しさは、棚の表示を見ずに探し続ける、本を選んでも内容を確認できない。評価では、読書に親しみ、いろいろな本があることを知っているかを、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。学校図書館の表示や棚を確認、関心のある本を選ぶ。実物を開いて内容に触れ、選んだ理由や、本を読んだ感想を伝える。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。評価：知①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〔知識及び技能〕(3)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「探したい本の手掛かりは、どこにありますか」

【めあて】図書館の本の置き方を知り、読みたい本を探して読む。

予想される児童の反応：・同じ仲間の本が近くにあった。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「探したい本の手掛かりは、どこにありますか」

学校図書館の表示や棚を確認、関心のある本を選ぶ。実物を開いて内容に触れ、選んだ理由や、本を読んだ感想を伝える。

対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。

予想される児童の反応：・同じ仲間の本が近くにあった。

・題名だけでなく中も確かめて選びたい。

指導上の留意点：学校で使える分類表示や検索の手順を実物で示す。読む目的と合うかを中身で確認し、本の厚さや読んだ冊数を評価の基準にしない。

想定する難しさ：棚の表示を見ずに探し続ける、本を選んでも内容を確認めない。

評価では、読書に親しみ、いろいろな本があることを知っているかを、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：知① 読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・題名だけでなく中も確かめて選びたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「探したい本の手掛かりは、どこにありますか」。中央は、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

